

花葉会総会

平成26年度一般社団法人花葉会総会が、平成27年10月18日(日)午後2時より、千葉大学園芸学部100周年記念戸定が丘ホールにて開催されました。出席者は22名、久保田芳久幹部会員の司会進行で定刻どおり開始されました。

三吉一光会長の開会挨拶、千葉大学及び園芸学部の近況報告がありました。

「大学全体についての報告が3つある。

①文部科学省が大学の国際化を推進するというプログラムを全国に呼びかけた。これに千葉大学も応募したところ実施校に採択された。5年間のプログラムで、昨年からは始めており、残り4年間に大学の国際化を推進するというもの。これにより予算付けされ、これまでより学生の海外渡航が進められ、短期・中期の留学が増えている。

②「千葉大学院大学」という名称で呼ばれるが、10年ほど前より研究を主体にする大学は、「大学院大学」と言うということになり、この名称を名乗っている。もちろん学部の教育もあるが、大学院大学の存在は大学院を主体にしたものだとこのことが定義され、今夏、文部科学省からも認められた。

③全国の国立大学の種類を3つにわけ、第1グループは、主に地方大学で教育・工学など地方の産業や仕組みを維持するのに必要な大学、第2グループは、特殊な機能を持った大学で、東京藝術大学・東京医科歯科大学など。第3グルー

プは、世界の大学と学術面で競争やリーダーシップの取れる大学。この3つのグループのどこに属するかは、学部単位でなく大学単位で決める。千葉大学は、第3グループに申請し、このグループに属することになった。世界を相手に研究しなければならない。

財源は、国からの交付金だが、3つのグループで財源の配分が変わってくる。第1グループは、その地方の社会構造を維持するのに必要不可欠なので、確実に持続的に交付される。第3グループに関しては、成果次第で変わってくる。

これを受けて、千葉大学では大学院の組織の見直しがされている。理学部と工学部が合体する。文系と理系を融合させた新しく国際教養学部が新設される。園芸学部からも3名の教員が移動する。

園芸学部としては、園芸産業創発学というプログラムが始動し、平成28年度の入試より学生を募集する。来年の新生より園芸学科・食料資源経済学科から10名ほどの学生にこのプログラムを試行的に始めることになった。このプログラムの主な目的は3つある。①は培ってきた技術教育、②はマーケティング、③は国際的な視野を持つ、を教育の柱とする。

これからの園芸界を担うような人材を育成したいとの学部・学科の思いがあるので、周囲に高校生がいたら受験を勧めていただけたらと思う」と、しめくくられました。

午前中に開催された運営幹部会で推薦された長岡求理事長が議長に指名され、議事に入りました。

4月より花葉会が、一般社団法人となり組織が変わったことにより、議題が2014年9月1日～3月31日までの26年度前期会計報告、4月1日から8月31日までの第1期の会計及び監査報告という具合に、この1年を2つに分けて報告されました。



開会の挨拶をする三吉一光会長

(1)平成26年度事業報告

(平成26年9月1日～平成27年8月31日)

- ①平成26年10月26日 総会
- ②花葉会賞贈呈
- ③平成26年12月10日「花葉」第33号発行
- ④平成27年4月1日 一般社団法人花葉会発足
- ⑤平成27年5月29日～6月6日 ガザフスタンへの海外園芸調査
- ⑥第30回 2015年花葉会セミナー
- ⑦花産業必修1000属検定
- ⑧幹事会開催は、平成26年10月13日、10月26日、12月20日、平成27年1月31日、3月21日、運営幹部会開催は、4月26日、7月4日、8月22日

(2)平成26年度会計報告

4月1日より一般社団法人化され

たことにより、法人化前（平成26年9月1日～平成27年3月31日）を前期会計報告として、國分尚副会長より①一般会計報告、②第30回2015年花葉会セミナー会計報告がなされ、③平成26年度前期会計監査報告を河野幹司氏が「平成26年度の会計収支の結果、正確に整理・執行されている」と行ないました。

平成26年度前期会計報告

（平成26年9月1日～平成27年3月31日）

①一般会計報告

収入の部

前年度繰越金	456,853
会報広告料（33号）	849,784
協力金	564,790
総会余剰金	4,000
基金より繰入	1,675,862
書籍販売	7,370
雑収入	494
預金利息	144
合 計	3,559,297円

支出の部

印刷費	1,102
会報関係	864,857
通信費	77,086
運送費	3,920
総会費（記念品代等）	159,118
会議費	142,716
事務費	10,668
賃金等	611,770
慶弔費	37,994
税金	69,839
日本花普及センター賛助金	100,108
法人登記費用	285,986
2014年サマーセミナー補填	675,862
合 計	3,041,026円
差引残高	518,271円

②第30回2015花葉会セミナー会計報告

収入	707,500円
(内訳)	
7,000円 × 70人	490,000
3,000円 × 51人	153,000
2,000円 × 29人	58,000
テキスト販売	6,500
合 計	707,500円

支出 990,894円

(内訳)

会場費	136,640
印刷費	65,865
講師謝礼	130,210
講師旅費	110,000
懇親会費	210,000
お弁当・昼食	111,830
見学会バス代	64,800
通信費	91,626
運送費	8,002
事務費	61,921
合 計	990,894円

差引残高 -283,394円

*平成26年度後期一般会計より補填

(1)(2)の議案は、拍手を持って承認されました。

(3)平成26年度後期会計および監査報告

27年度1期（4月1日～8月31日）の5ヶ月間を田中桃三監事より、決算報告書の詳しい説明がなされました。

一般社団法人化を機会に、田中桃三氏と石川君子氏が監事就任。会計監査だけでなく業務監査も兼ねるようになり、代表として田中氏が業務・会計は適切に行なわれていると監査報告を行ない、拍手を持って承認されました。

(4)平成27年度事業計画

（平成27年9月1日～平成28年8月31日）

①「花葉」34号発行

②花産業必修1000属検定

③第31回 2016年花葉会セミナー開催

平成27年7月2・3日（土・日）

④海外園芸事情調査（トルコ）

⑤総会、花葉会賞の贈呈

⑥交流会の開催

(5)平成27年度一般会計予算(案)

収入の部

前年度繰越金	-234,709
会報広告料（33号）	875,000
協力金	100,000
基金より繰入	2,000,000
合 計	2,740,291円

支出の部

印刷費	60,000
会報関係	870,000
通信費	100,000
運送費	10,000
総会費	200,000
会議費	200,000
事務費	130,000
賃金	950,000
慶弔費	50,000
税金	70,000
予備費	100,291
合 計	2,740,291円

(4)(5)の議題は、拍手を持って承認されました。

報告

田中桃三監事より、一般社団法人花葉会発足について「昨年の夏から社団法人化への議論が起り、27年3月31日付けで登記が終わり、4月1日から法人化しました。詳しくは「花葉」に記載しました。法人化しましたが、会の運営は変わりません。これまで個人名で行

なっていた部分を法人名へと整理してゆきたい」と、報告されました。

鈴木司幹部会員と長岡求理事長より、「今まで“花葉”送付時に協力金という形で郵便振替用紙を封入したが、協力金は少なかった。今回、別刷りの用紙を封入し、協力金のお願いをし、事務経費だけでも賄いたいと思っている」との発言がありました。

さらに、花岡喜重氏より「基金・協力金の意義を会員の皆さんに伝えてはどうか」との意見があった。「皆様の協力のもと順調に議事が進んだことに感謝します」と、議長より挨拶があり議事が終了しました。

花卉産業必修1000属検定試験

B級合格認定証授与

任倩玉氏にB級の認定証が三吉一光教授より授与されました。

海外園芸事情調査報告スライド上映

午後3時より4時15分まで、平成27年5月29日～6月6日にカザフスタンへの海外園芸調査に参加した長岡求理事長が撮影した、野生植物230種ほどを植物名と現地状況の状況を交えながら画像にて解説した。

懇親会

午後4時30分より緑風会館2階にて、國分尚副会長の司会進行で懇親会が始まりました。

開会の挨拶を熱田健氏が行い、渡辺重吉郎先生が「発展と健康を祝して、カンパイ」と、乾杯の発声をされました。終始和やかに進行し、閉会の挨拶を鈴木邦彦氏が行い、盛会のうちに会は終了しました。

(文責：編集部)



B級合格者任倩玉氏



懇親会開会の挨拶をする熱田健氏



乾杯の発声をする渡辺重吉郎先生



懇親会閉会の挨拶をする鈴木邦彦氏